

校庭芝生化のメリット・デメリットに関する一考察

～維持管理に関する改善策の提案～

Advantages and disadvantages of school turfing

- The proposal of improvement about maintenance and management -

1K08B096-4 佐藤亮介

主査教員 友添秀則 先生 副査教員 木村和彦 先生

【本研究の動機】

私が校庭芝生化に初めて関心を抱いたのは、私の出身小学校が、私の卒業後に町内の小学校を統合し新しく建てられた際、新しい小学校の校庭には、土のグラウンドの隣に芝生のエリアが設けられており、子供たちが裸足で楽しそうに遊んでいたりと、横になり寝ていたりする光景に強い衝撃を受けた時である。それは、学校の校庭や町の公園が土であり、芝生といえば大規模な競技場のフィールドというイメージが強かったため、芝生が身近に存在することに違和感があったからであろう。また、実際に芝生で遊んだ経験が少なく、裸足だとどのような感触なのだろうか。という疑問を抱いていた。

日本では、1970年代から各地で校庭芝生化が行われてきた。しかし、高額な工事費や芝生化の導入・維持などの問題から失敗に終わる事例が多い。それにもかかわらず、現在でも多くの都道府県が校庭芝生化を推奨している。そのことに強い疑問を抱き、校庭芝生化の魅力と失敗する原因について研究したいと思ったことが、本研究の直接的な動機である。

【本研究の目的】

本研究は、子どもの体力低下問題が深刻な現代において、校庭芝生化のもたらすメリットと、校庭芝生化によるデメリットを明らかにし、校庭芝生化の必要性を示すこと。また、芝生の維持管理面でのデメリットの改善案を提案することを目的とする。

【本研究の方法】

本研究は関連文献購読や、資料・先行研究を参考とした、文献研究である。

【各章の概説】

<第一章：校庭芝生化運動の歴史の変遷>

校庭芝生化についての情報を、鳥取方式を用いて説明し、校庭芝生化のメリットとデメリットに関する事柄を明確にし、校庭芝生化の歴史の変遷について述べる。具体的には、1970年代に行われた芝生化運動と1990年代から現在までの芝生化運動は、どのような時代背景のもとで行われたのかを分析する。

その中で、校庭芝生化が失敗に終わる事例の原因や、成功事例の共通点について、どのような違いが見られたかについて考察を行う。

<第二章：スポーツ振興基本計画から見る

校庭芝生化>

現代の子どもたちの現状を体力の面から分析し、その要因について、校庭芝生化の必要性と意義、校庭芝生化の課題について調査・考察する。

芝生化工事中のグラウンド利用や、野球や陸上などの種目に与える影響や、芝生の管理体制について、考察を行う。

校庭芝生化に関する補助制度を、平成12年(2000)年9月に策定された文部科学省のスポーツ振興基本計画を中心に調査する。また、独立行政法人日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成金交付や、東京都公立学校運動場芝生化補助金交付についても調査し、その概要を述べる。

<第三章「緑の東京10年プロジェクト」

から見る校庭芝生化>

事例「緑の東京10年プロジェクト」を調査し方針策定の背景や、東京都のこれまでの取り組みについて明確にし、緑の東京10年プロジェクトから見る、校庭芝生化の必要性・課題・補助制度について明確にする。

また、緑の東京10年プロジェクト施策状況2008・2009・20011を参考に、施策状況を明確にし、比較・考察する。

<結章：策略の提案>

生徒・保護者・地域住民全員で一つの行事として芝生維持活動を行うことや、学校主催のスポーツ交流大会などを通じて、保護者や地域住民に芝生の良さや、管理の体制を理解してもらうこと。教師と保護者と地域住民で校庭の維持運営を行う組織を学校内に作り、芝生利用の窓口や芝生でのイベントの企画・運営、芝生情報の拡散などを行う組織を作ることを提案する。